

塩谷郡市医師会だより

Contents

- 1 令和元年度第2回役員会報告
- 2 第15回市民公開講座報告
- 3 学術講演会報告
- 4 災害医療活動報告

一般社団法人 塩谷郡市医師会
広報委員会

〒329-1312

さくら市桜野1319番地3

さくら市氏家保健センター内

TEL 028(682)3518

FAX 028(682)5760

令和元年度第2回役員会報告

令和元年9月24日（火）午後7時から医師会事務室で開催された。

出席者：岡会長、尾形副会長、阿久津副会長、佐藤（勇）会計担当理事、村井信之理事、村井成之理事、植木理事、半田理事、仲嶋理事、高橋理事、手塚理事、嶋尾理事、中嶋監事、佐藤（泉）監事



岡一雄会長の挨拶の後、下記について議論された。

1. 令和2・3年度理事・監事・及び各種委員会委員の推薦依頼について

来年4月の定時総会では理事・監事・委員会委員の改選が行われることから、その日程が示された。各医師団には理事・監事・委員会委員の推薦名簿を令和2年2月12日までに提出するよう依頼があった。人数は理事12名、監事2名の計14名と変更なし。選挙の公示日は令和2年3月27日、立候補届は4月10日まで、選挙は4月18日の定時総会の際に行われる。なお、来年度から新たな委員会が設置されることになった。

①災害医療対策会議 ②ABC検診委員会

2. 災害医療対策会議について

阿久津副会長から説明があった。

10月8日に本年度の第1回災害医療対策会議を開催する。内容は、塩谷支部災害時医療救護マニュアルの作成、7月に実施した被災状況報告訓練の総括と今後の取組方針、行政への要望事項の取りまとめ等である。

3. 市民公開講座の進捗状況について（経過報告）

事務局から開催に向けた準備が予定どおり進んでいる旨の説明があった。しかしながら、本年からMRさんの市民公開講座に対する応援態勢が消極的になってきたとの報告が事務局からあった。

4. その他

(1) リレーコラムについて…

「在宅医療」をテーマにしたコラムは来年3月で終了するが、4月からは「かかりつけ医のことば」をテーマに継続していくことが決まった。会員の皆さんには執筆に協力をお願いしたい。

(2) 塩谷地区夜間診療室、12月1日の親善ゴルフコンペ、保険委員会等についての説明があった。

第15回塩谷郡市医師会市民公開講座報告

開催日時：令和元年11月6日（日）PM1:00～3:00

場所：高根沢町町民ホール

ご来場者数：210人、スタッフ：40人



塩谷郡市医師会ホームページ/メール	広報委員会編集部	医師会事務局
URL http://www.tochigi-med.or.jp/shioya/ メール shioya@tochigi-med.or.jp	高橋雄二 uppaship@fa2.so-net.ne.jp	齋藤 saitou.shioya@gmail.com 高橋 takahashi@e-shioya.jp

当日は、午前中からの雨でしたが、210人のご来場をいただきました。今回の市民公開講座は、「糖尿病の管理は口から？歯周病との関係について」をメインテーマにお二人の先生による二部構成の講演会となりました。総合司会は、フリーアナウンサーの「とろろちゃん」こと中野知美さんをお願いしました。



演



第一部、歯科衛生士である藤橋歯科医院の副院長である安生朝子先生による「健康長寿のために歯科ができることー健康ー健口ー健幸」では、口のケアの大切さ、最期まで口から食事をとることが非常に重要であり、そのために長く付きあえる歯科衛生士をみつけ、歯のブラッシングを含めて日頃のメンテナンス（定期検診）を受けていただきたいとの説明がありました。



岡 演 太



関 座 太

第二部、自治医科大学の講師である岡田健太先生による「糖尿病の食事療法と歯周病」では、

- ①ゆっくり食べる
- ②野菜から食べる
- ③寝る前3時間は食べない

という3つの食事療法が示され、歯周病は糖尿病の合併症のひとつであるが、オーラルフレイルからも口腔ケアは大切であり定期的な歯科への受診が大切であるとの説明がありました。

二部構成の講演が終わり、高根沢町医師団長の阿久津博美先生からの閉会の挨拶をもって終了することができました。また、来年は塩谷町での開催となるので引続きの参加をお願いしました。



学術講演会 I

「アレルギー性疾患治療剤ピラノアについて」
 日時：令和元年6月18日（火）
 講師：獨協医科大学 皮膚科
 准教授 林 周次郎 先生



内容は大きく分けて以下の3つ。①DPP-4阻害薬と類天疱瘡②乾癬と躁鬱病③アトピー性皮膚炎とデュピルマブ。どの疾患も日常診療で接する機会の多いものに関してであり、興味深い内容であった。特に①に関しては、現在糖尿病治療で広く使用される薬剤であり、非常に興味深く日々の診療においてとても参考になる内容であった。（池田雄一）

学術講演会 II

「脂質異常症の残余リスク～メタボリックシンドロームと中性脂肪～」
 日時：令和元年7月9日（火）
 講師：国際医療福祉大学病院 副院長
 柴 信行 先生

脂質異常症治療の最重要戦略は十分なLDL-C低下であること、スタチンによるLDL-C低下では心血管疾患発症予防は不十分であり70%程度の残余リスクがあること、メタボリックシンドロームや肥満は中性脂肪を上昇させ十分なリスク軽減が行われていないハイリスク集団であること、中性脂肪上昇は質の悪いコレステ



ロール増加のマーカーであること、そして中性脂肪をターゲットにした治療が新しい段階に入ったことなどをわかりやすくご解説いただきました。(仲嶋秀文)

学術講演会Ⅲ

「一般医家と血液専門医との連携を考える」

日時：令和元年9月10日(火)

講師：栃木県立がんセンター 副病院長

血液内科 和泉 透 先生
造血器腫瘍を疑い専門病院へ紹介する際のポイントとして、白血病は放置すると致命的になる点で迅速な対応が必要であること、多発性骨髄腫は新規治療薬の使用や自家末梢血幹細胞移植療法の有効性



が確認されて治療方針が大きく変わったこと、悪性リンパ腫は適切な治療のために正確な組織型の診断が大切であることなどをお話いただきました。また、一般医家へのアドバイスとして、病歴に関する情報が重要であること、検査の shotgun approach は望ましくないこと、分子生物学的・遺伝子検査は高額であり注意すること、不十分な骨髄採取での診断は避けること、がんセンターへの紹介に際してはより多くの情報を得るためと説明すべきことなどを伺いました。(仲嶋秀文)

学術講演会Ⅳ

「心房細動治療と地域連携について」

日時：令和元年10月29日(火)

講師：国際医療福祉大学病院

不整脈センター部長 福田 浩二 先生

超高齢化社会で増えつつある心房細動のカテーテル治療を中心に、お話しいただいた。心房細動の基礎、問題点から始まり最新のカテーテルアブレーション治療、抗凝固療法の実際そして地域病診連携



による問題の解決などわかりやすい解説をいただいた。心房細動のアブレーション治療は初期のころと比べ圧倒的に安全かつ有効になり、今後も益

々件数も増えるものと思われた。会場からも活発な質問があり、疾患に関する関心の高さがうかがえた。時間の都合上簡単な紹介に終わったが、機会があれば別の様々な不整脈や心不全治療についてもお話を伺いたいと思った。(北條行弘)

学術講演会Ⅴ

「食物アレルギー・アナフィラキシー診療のポイント」

日時：令和元年11月6日(火)

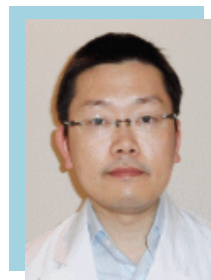
講師：獨協医科大学 小児科 主任教授

吉原 重美 先生

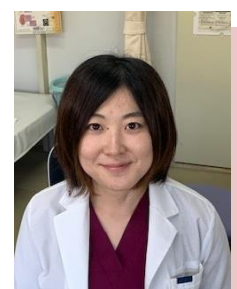


小学校などの現場では食物アレルギーが増加しており学校医としても、一般外来でもその対処が重要である。小児アレルギーの第一人者である吉原先生に食物アレルギーの起こるメカニズム(運動誘発性、シラカバやハンノキなどの花粉との交差免疫)やエピペンの使用法などについて解説していただいた。診断には問診が重要であることや赤ちゃんの時の皮膚感作を防ぐためのスキンケアの話など大変役に立つ内容であった。(岡 一雄)

※新入会員紹介



平成31年4月1日入会
尾形クリニック
大野 弘毅 先生



令和元年7月8日入会
大和田内科
西平 由理 先生

令和元年6月21日入会
佐藤病院
佐藤 守 先生

令和元年9月17日入会
菅又病院
福田 澄子 先生

よろしく
お願いします！

国際医療福祉大学塩谷病院 DMAT の

災害医療活動報告

—被災者の受入対応ならびに台風被災地への

MAT 派遣報告—

国際医療福祉大学塩谷病院 一瀬雅典

近年、多数傷病者の発生を伴う交通災害や地震・風水害などの自然災害がとみに増加している。国際医療福祉大学塩谷病院（以下、当院）は、2017年4月に地域災害拠点病院およびDMAT指定病院に認定され、これらへの対応を訓練してきたが、本年度にはいり実災害に対応する事例を多数経験したので報告したい。

当院での被災者受入れ事例としては、6月に学童12名、教員1名の計13名が受傷搬送された交通事故案が最初である。隣接する消防からリエゾンが当院に入り極めてスムーズに対応できた。その後、8月にも車6台の玉突き事故での5人搬送受入事案も経験し、さらに10月の台風19号では浸水家屋に取り残されたり、流されたりした6名の低体温症にも対応した。こうした被災者受入にはDMATだけでなく事務職を含む全病院協力が不可欠だが、全部署

を巻き込んで行っている災害初動訓練が効果を発揮したと考えている。

一方、9月の台風15号では当院のDMAT隊1チーム（医師1・看護師2・業務調整員2）が出動した。チームは一瀬雅典副院長、田代紘子看護師、高橋俊介看護師、長島雄二放射線室副主任、直井雅典薬剤部副主任の5名で、病院所有救急車で9月12日午前3時に出動。千葉県印西市の日本医科大北総病院活動拠点本部に到着後、本部活動・避難所巡回・患者搬送支援などを2日間行い無事帰還した。さらに10月の台風19号による栃木県内の被災地（主に栃木市大平地区）にも4チーム延べ15名の隊員が出動し、浸水で機能廃絶した病院の患者避難搬送などの活動を行った。

当院には日本DMAT隊員12名、栃木DMAT隊員8名があり、厚労省指示に基づく県庁からの要請にて災害支援へ出動する。昨今の災害頻発の中で当院の災害医療に対する取組みは県内でも高く評価されており、塩谷郡市における災害医療の要として今後も積極的な活動を継続したい。



1) 活動拠点でのミーティング（千葉）



3) 出動2隊のミーティング



2) 患者搬送ミッション（千葉）



4) 泥に埋もれる被災病院1階